

士會
奈良

9月号 VOL. 546

SHIKAI

2025 NARA

奈良の駅 シリーズ Vol.14

かしば
駅名：香芝駅



【駅舎概要】

所在地：奈良県香芝市下田西1丁目1
構造：木造
建設時期：駅舎の構造本体は開業当時
からのものと思われる
令和6年9月大規模な改修
が終わり現在の姿に

【沿革】

明治24年（1891）：大阪鉄道（JR和歌山線の前身の一つ）王寺～高田間延伸開業の際に下田駅として開業
明治40年（1907）：国有化
明治42年（1909）：線路名称が制定
され和歌山線の所属となる
昭和62年（1987）：国鉄分割民営化により西日本旅客鉄道（JR西日本）の駅となる
平成16年（2004）：香芝駅に改称
令和6年（2024）：大規模な改修が終了



香芝駅構内

駅シリーズ第14回はJR香芝駅です。市名の「香芝」を冠していますが、市役所の最寄り駅は近隣の近鉄下田駅であり、主に駅周辺の住民が通勤・通学に利用する駅となっています。

■香芝の由来

近くにある鹿島神社は源義朝の家臣鎌田政清の子政光が常陸国の鹿島神宮の御分霊を勧請したのがはじまりとされています。神社のHPによれば、源義朝が平清盛に敗れ東国へ敗走中に仲間の謀反により源義朝は暗殺、鎌田政清も殺害されました。政光はかろうじて難を逃れ、常陸国鹿島神宮に辿り着いたとされています。そこで、源氏の復興を祈願し、百日の参籠を行い、昼夜一心に法華経を誦唱しました。満願の夜、夢に一老翁が現れ「庚子（の年）源氏栄え、汝に福 西にあり」との御神託があり、御分霊の御幣を奉じ西方へと向かいました。大和の下田の里で夕暮れとなり、土手の松の木の下で野宿し、翌朝この地の景色が極めて鹿島に似ていたため、懐かしく思いここに小祠を建て鹿島大明神を祀ったといわれます。「香芝」の由来が鹿島神社に由来するといわれています。

■JRと近鉄

近隣の近鉄下田駅は昭和19年（1944）に近畿日本鉄道の駅となり近畿日本下田駅（のちに近鉄下田）と先にできたJRの下田駅と区別していますが、現在はJR香芝駅となり下田駅は近鉄のみとなっています。

■バリアフリー化

単式ホーム1面1線（上り：王寺方面）と島式ホーム1面2線（下り：高田方面）からなります。駅舎は上りホームにあり、下りホームへは跨線橋をわたる必要があります。令和6年（2024）に電車とホームの段差を解消すべく、大がかりなかさ上げ、点字ブロック設置、スロープ化、エレベーター付き跨線橋の整備、バリアフリートイレの設置など大規模な改修が終りました。これから他の駅も改修が進み、より利用しやすい駅になればと願います。

【記：高田支部 谷 幸治】



跨線橋



ホームのかさ上げで解消された段差

令和7年度 「建築土の日」事業 地産地消を具現化するまちと建築を考える～御所プロジェクト～

令和7年6月29日、「建築土の日」の事業が開催されました。

◆午前の部 まち歩き

午前中は吉村理氏とまち歩きを行い、設計された民家を見学解説していただきました。吉村氏は奈良県御所市で事務所を構え、民家のリノベーションを数々行いながら御所のまちづくりに10年以上携わっておられ、京都芸術大学大学院や畿央大学の教授もされています。

■花内屋（築180年反物の洗い屋さん）

吉村氏の母方祖母の生家の改修。敷地には何棟もの町屋が並び、二方向の通り庭からの光を取り入れるための工夫がされています。奥の座敷は開口に対して正面の壁と天井を同じ素材のL字の造作壁を作り、レフ版効果で室内を明るくしています。



■辰巳蔵（吉村理建築設計事務所）



花内屋の敷地奥にある蔵を改修した吉村建築設計事務所。この蔵と道路に面した隣地町屋の壁を取り払うことで道路からのアクセスを生み蔵に光を取り込んでいます。壁の補強を貫で行い特徴的な空間となっています。

■Tatsunori Sato. (チョコレート屋さん)



「風の森」の油長酒造の倉庫を改修した週末店舗。床タイルやテーブル板など一部古材を利用し、カフェスペースを分節し店舗を広くみせています。

■宿チャリンコ（自転車屋さんを改修した宿）



「GOSE SENTO HOTEL」の自転車屋さんを改修した宿。宿・銭湯・食事処を行き来することで江戸時代から変わらない御所を味わうプロジェクト。

また急きよ見学者の中井七兵衛氏のご厚意でご自宅と登録文化財の中井家住宅も見学できました。

吉村氏の説明で「御所のまちは表と裏の雰囲気が違う面白さがある」が印象的で、彼の手掛けた作品にもそれがあると思いました。昔と変わらない外観から一歩中へ入ると現代に合わせた建築的な工夫がされていると感じました。

【記：生駒支部 西本 翠】

◆午後の部 講演会に参加して

御所市防災交流館 Mimoro（ミモーロ）「地産地消を具現化するまちと建築を考える～御所プロジェクト～」というタイトルの講演会に参加しました。

講師は午前に引き続き、吉村理氏にご講演頂きました。参加者は75名でした。



講演会の様子

講演のタイトルにある「地産地消」について、普段使われている「収穫した産物をその土地で消費する」という一般的な意味しか思い浮かばず、「まち」や「建築」に対して地産地消するとはどういうことだろうという疑問が湧き、どのような内容で話されるのかとても興味を持ちました。お話を伺うと、具体的には、「御所の地域の資源として、町の背景にある素晴らしい里山やそこにある木材という、いわゆる建築に必要な産物が実質的な資源として考えられる。」しかし、それだけではなく「元々の御所の民家や町並、またそこに住む住民や建築に関わる職人さんたちをも広い意味での「資源（産物）」として捉え、それらも御所の新しい空間をつくる為に必要であり、積極的に利用（消費）していくという考え方である」と話されました。また数々の御所の改修で知り得た知識や工夫も、新築をする際のアイデアとして積極的に活用しているとのことでした。



ミモーロ展望室から見える御所の町なみ

午前中のまち歩きには参加できませんでしたが、たくさんの写真やイラストとともに吉村氏のわかりやすい説明を伺い、まるで御所のまち歩きをして来たかのような時間を過ごせました。この日は、建築士の仕事や地域との関わりについて広く知って頂くという主旨での開催の通り、建築士会の関係者だけではなく、一般の参加者の方も多数参加されていました。皆さんは熱心に吉村氏のお話を聞き入っておられ、時間の許す限りたくさんの質問も出て盛会に終わりました。次回は吉村氏のお話の内容を参考に、ゆっくりと御所のまちを探索したいと思います。

【記：奈良支部 中辻千重】

5月6日に樋原支部主催で建築サロンが開催されました。

今回は昭和15年に改築されたJR畠傍駅を見学し、駅とその周辺地域の保存活用について勉強会が開催されました。

御存知の通りJR畠傍駅（かつては国鉄畠傍駅）についてはJR西日本により駅の老朽化と乗降客の減少により駅舎コンパクト化の対象とされていました。しかしながら当時の宮内庁も関与し、皇族が畠傍御陵や樋原神宮を参拝されるときのための貴賓室も備えた立派な建築遺産でもある当駅を解体してコンパクト化するには惜しく、保存を求める建築士会を始め多くの市民が樋原市への無償譲渡・保存活用の動きをしていましたことは記憶に新しいと思います。

その後一旦譲渡受入の断念を決めた樋原市との間で再考を求める中、現在ではJR西日本と樋原市との間で協議を継続する方向になっています。

サロン当日は地域企業と実行委員会が中心となって「第8回畠傍駅音楽マルシェ」が開催されており多くの人で賑わっていました。音楽ライブを楽しみながら私達は特別公開された貴賓室をボランティアガイドの説明でじっくりと見学できました。

地元にいながらこの建物について知らないことが多く、駅の構造や利用形態を学ぶ中で先人の思いに共感することができました。



地域の町並みを見学しながら場所を変え、かつての商店跡で樋原支部の米村博昭氏から「JR畠傍駅舎の保全活用を目指して」という勉強会に参加しました。畠傍駅の歴史から保全活用に至った経緯、その後の糺余曲折、現在の活用事例それから今後我々がどうすればよいかといった勉強会で地域の遺産をどのように活かしていくべきか多くの学びを得ることができました。

【記：高田支部 吉田泰造】

今年の全建女（全国女性建築士連絡協議会）は、7月19日に山形県で開催されました。

テーマは「山形から発信 みらいへつなぐ木への挑戦」～雪・山・川がおりなす食文化と共に～です。

私は今回初めて山形を訪れましたが、テーマにもあるように、山形は山に囲まれた自然豊かな地域で、真夏にもかかわらず山にはまだ雪が残り、美しい川がせせらぎ、さらに海もあります。まさに自然の恵みにあふれた土地であり、食の宝庫でもあります。お魚やお肉、果物、そしてお酒がどれも豊富でとても美味しく、こんなに魅力的な場所だとは知らず、今回訪れることができて本当に良かったと感じました。全建女での基調講演では、「木造建築の可能性」をテーマに、瀬野和弘氏と鍋野友哉氏のお話を伺いました。奈良県でも「奈良の木でつくる非住宅建築技術者講習」が実施されるなど、地域材の活用と木材利用の促進が進められていますが、山形でも同様に木材の利用促進に向けた取り組みが行われているようです。



基調講演



大懇親会でのお酒

特に印象深かったのは、瀬野和弘氏の「設計者よ、山に来い（恋！）」という言葉でした。この一言には、建築と自然との真摯な向き合い方が凝縮されているように感じました。瀬野氏は、木材の自然乾燥にこだわり、木軸の架構線的な美しさを「骨美人」と表現します。これは、表面的なデザイン「表層美人」ではなく、構造そのものの美しさを追求する姿勢を示しており、木造建築の本質を突いた考え方だと深く共感しました。また、裏山の木を使い、昔ながらの木組みを活かして建物をつくるという思想にも、地域資源を大切にし、持続可能な建築を目指す強い意志を感じました。「地材地建」は決して一過性のスローガンではなく、私たち設計者の意識と実践にかかっているのだという瀬野氏の言葉に、設計者としての責任の重さと可能性を再認識しました。また、山形に伺いたいなあと思っております。

【記：女性委員会 寺岡春恵】

奈良支部 韓国慶州市 姉妹都市表敬訪問

6月16日～18日に、韓国慶州市 姉妹都市表敬訪問・歴史村等見学会を開催しました。

奈良支部と慶州建築士協会は2年おきに相互に訪問してきましたが、コロナ禍の休止を経て、久しぶりの訪問です。参加者12名で慶州市役所を表敬訪問しました。慶州市副市長、建築関係課長様はじめ、慶州建築士協会の方々に迎えられました。観光客が増えていることやAPEC2025が韓国で開催されることを受け都市全体が盛り上がっているとの説明を受けました。

慶州建築士協会の元会長設計の建築を案内いただき、夜は協会メンバーとの懇親会でもてなしていただきました。懇親会のあと、景勝地である復元されたお堀と寺院と橋梁の夜景を見学しました。夜にも関わらず観光客で賑わっており、文化財活用の重要性を実感しました。

2日目は、安東へ向かい屏山書院、安東河回村を見学しました。いずれも歴史的建造物が保存されており、奈良と同様に文化財保護に注力されている様子がうかがえました。

3日目は、釜山の甘川文化村を見学しました。朝鮮戦争のときに一つの民族が集団で狭隘な山岳地に移住し住居を構えた場所であり、近代になって観光地として再開発され、時代の移り変わりを感じました。

今回も慶州建築士協会のもてなしの心の深さには感銘を受けましたが、奈良支部も誠実に対応し交流を深めることができたと感じています。

最後になりますが、今回の訪問にご協力いただいた奈良市、奈良県建築士会会員、賛助会員、関係者の皆様に感謝を申し上げて2025韓国慶州市 姉妹都市表敬訪問・歴史村等見学会報告とさせていただきます。

【記：奈良支部 中元綱一】



奈良支部 国宝 興福寺五重塔保存修理工事現場見学会

7月15日、国宝 興福寺五重塔保存修理工事現場見学会が開催されました。興福寺五重塔は、現在、令和15年度の完成を目指して、屋根葺替及び部分修理事業に着手しています。この事業は、先人達から引き継いだ掛け替えのない財産を、使命感をもって後世に伝えるべく、修理を施し、保存するという歴史的な大事業です。今回は、屋根葺替と部分修理及び素屋根工事の工夫など伝統建築物の保存技術の研鑽を目的に開催されました。

弊社（株式会社榎谷設計）が素屋根の設計を担当していることから、本年3月から奈良県文化財保存事務所様と調整を行い、日程調整、資料の提供、見学コースについて打ち合わせさせていただきました。5月の開催案内時には定員30名でしたが、締め切りの時点で47名に膨れ上りました。せっかくの国宝の見学会であるため、保存事務所にご相談したところ、安全を考慮して隊列を乱さないことを条件に大幅定員増で許可を得ることができました。

開催当日は、素屋根の1階部分で、保存事務所の矢谷主任より塔の歴史、保存修理の説明をしていただき、続いて弊社の寺下から素屋根の説明をさせていただきました。その後、階段で10階建てに相当する素屋根の最上階まで登り、説明を受けました。参加者からは、想像以上に高いところまで階段で上がったことから息切れ、足の痛みを訴える方も見受けられましたが大事には至りませんでした。最上階で矢谷主任から詳細な説明をうけ、階段を下りながら3層ごとに追加の説明を丁寧に受けました。SNSに上げないことを条件に写真撮影も許可されましたので、皆さん熱心に普段見られない塔のディテールを撮影していました。地上に戻って再度の説明、質疑応答が行われ、説明頂いた保存事務所様にお礼を述べて見学会を終えました。

今回の見学会では、国宝の見学会であり想定以上の多数の参加者でしたが、保存事務所様、興福寺様、尾田組様、参加者の皆様のご協力で無事に終えることができましたことに厚くお礼を申し上げて国宝 興福寺五重塔保存修理工事現場見学会の報告とさせていただきます。



【記：奈良支部 中元綱一】

高畠・旧栗盛吉蔵邸の保存・活用を考える フォーラム

「高畠・旧栗盛吉蔵邸の保存・活用を考えるフォーラム」(主催:高畠・旧栗盛吉蔵邸の保存・活用を考える会、共催:(一社)奈良県建築士会、(公社)奈良まちづくりセンター、なら・町家研究会)が、奈良市まちづくりセンターを会場に、7月6日に開催され、地元住民、行政、建築関係者、歴史的建築物に関心がある人などで、定員を超える99名が参加されました。



予定している」と新聞報道がありました。

その後、地元の住民団体の代表や大学教授らが、昭和初期の高畠の文化の薫り高い雰囲気を構成するヴォーリズ設計の旧栗盛吉蔵(小西)邸の保存活用を求める要望書を住宅メーカーに提出され、現在は取り壊す方針を保留されている状態です。

奈良県建築士会でも、新聞報道を受け、急遽、住宅メーカーに見学をお願いしました。急でしたが5月16日には会員22名が建物の見学をさせていただきました。その結果、建物の歴史的・文化的価値を残し保存・活用を進めることができ大事であるということから、「高畠・旧栗盛吉蔵邸の保存・活用を進める会」の世話人に加わりました。

フォーラムは、地元高畠にお住いで「高畠・旧栗盛吉蔵邸の保存・活用を考える会」代表世話人の大槻旭彦氏の挨拶に続いて、旧栗盛吉蔵邸の映像放映がありました。第1部は、ヴォーリズ建築研究の第一人者である大阪芸術大学名誉教授/関西学院大学フェローの山形政昭氏による「W.M.ヴォーリズの建築物と旧栗盛吉蔵邸について」とジャーナリストの浅野詩子氏による「高畠サロンについて」と題した講演がありました。

山形氏によると、ヴォーリズは、今年、来日120年になり約300の建築を設計されてきましたが、多くは近江八幡市に残っています。ヴォーリズ建築文化全国ネットワークによると、ヴォーリズ建築は、北は北海道のピアソン記念館から南は宮崎県のコニファー旧安村邸まで全

国にあり、奈良の栗盛邸は現在入っていません。山形氏は、栗盛邸の設計図が一粒社で保管されており、その設計図の内容を説明されました。また、現地を視察され、外壁に沿って煙道があること、土塀の雰囲気、玄関までの植木や縁石のアプローチがヴォーリズらしいとし、南側(裏)部分が変化し、北縁窓が雨風で痛んでいることを気にされていました。ヴォーリズ建築の保存事例として、当初からの所有者が住み続けている事例、資料館など見学施設、文化施設、学校施設、カフェ、商業施設、迎賓施設等に用途変更された事例を報告されました。

浅野氏は、「大正末期から昭和初期に高畠に住んでいた画家、小説家などの文化人が、志賀直哉邸で「高畠サロン」と呼ばれ交流が盛んでした。その常連の洋画家、浜田葆光(二科会員)門下生約10人でつくる美術グループ「新光会」があり、栗盛吉蔵もその会に参加されていたことが分かっています。高畠サロンという視点から、ヴォーリズと栗盛吉蔵画伯の関係性なども、この建物を保存・活用する上で重要ではないか」と話されました。



第2部は、奈良まちづくりセンターの倉本宏理事から、活用提案の前段階として今まで寄せられた多数の活用提案(例えば、新たな文化発信拠点、工芸体験、子ども向け施設、福祉的な芸術活動、観光関係施設)と、「地域の法的環境」「近隣の文化遺産」「ならまちエリアとの連携」等視点を整理して示され、会場からの意見を求められました。

近隣の方から所有者に建物や庭の維持管理、周辺の環境を配慮した利用を考えてもらいたいとの意見や、所有者である住宅メーカーの担当設計者が過去に関わったヴォーリズ住宅もあるので理解しているのではないか、また、一粒社の方より、近江八幡郵便局の活用についてお話をいただきました。時間の関係上、参加者の皆さんからの意見は、アンケートという形で頂き、それを集約・整理したものを踏まえて、所有者である住宅メーカーにお伝えすることになりました。また、高畠・旧栗盛吉蔵邸の保存・活用を考える会の活動への理解と支援をお願いしてフォーラムは終了しました。

建築士会としても連携し活動を進めたいと思います。

【記:奈良ヘリテージ支援センター 紀本澄男】

お知らせ

●第67回建築士会全国大会（大阪大会）

令和7年9月19日～21日（金～日）開催
※参加申し込みは締め切られています。

●入会

菊池 利光 様（奈良支部）
坂原 有咲 様（高田支部）
渡邊 晃久 様（高田支部）



よろしくお願ひいたします。

編集後記

奈良県建築士会メール配信サービスを開始してから、まもなく1年を迎えようとしています。おかげさまで、これまで大きな問題もなく運用を続けており、より分かりやすくお届けできるよう改善を重ねてまいりました。皆様には、本サービスをうまくご活用いただけていますでしょうか？

改めて本サービスの内容をご案内したいと思います。

本サービスは、奈良県建築士会会員の皆様を対象に、無料で配信しているもので、主な配信内容は法改正、セミナー、イベント等に関する情報です。配信は月に1～2回程度で、会報誌「建築士」や「士会奈良」では取り上げられない情報も多く、タイムリーな情報提供の場として、受信者の皆様から好評をいただいております。

しかしながら、現在ご登録いただいているのは約190名、会員全体の約3割にとどまっており、まだ十分に周知されていない状況と認識しております。

ご登録いただいている会員の皆様におかれましては、ぜひメールアドレスをご登録いただき、日々の業務やスキルアップにお役立ていただければ幸いです。なお、配信サービスについて不安な点がございましたら、すでにご利用中の会員の方に様子をお聞きいただき、安心してご登録いただければと思います。

【記：情報・広報委員 福田成生】

登録フォーム：<http://eepurl.com/iOj6O6>

9月	14日（日）二級建築士試験（製図） 19日（金）第67回建築士会全国大会（大阪大会）	10月	4・5日（土日）FUN木FES 2025 8日（水）令和7年度第3回理事会 12日（日）一級・木造建築士試験（製図） 13日（祝）天理やまのべ クラシックカーフェス 2025 25日（土）魅力ある和の空間 in 滋賀
----	---	-----	--

士会奈良 発行所 発行責任者 編集 通巻663号 令和7年9月1日（発行隔月1回1日発行） 一般社団法人 奈良県建築士会 〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館 電話：0742-30-3111 FAX：0742-33-4333 WEBサイト： https://nara-kenchikushikai.or.jp/ e-mail： info@nara-kenchikushikai.or.jp	情報・広報委員会 委員長 伊藤 吉郎 副委員長 小西 直樹 福田 成生 委員 吉村 晃人 本多 健一 高杉 明 永友 翔 松尾 憲治 上柿 範兼 吉田 泰造 松田 輝明 小松原寛俊 大和 良樹 押部 誠
---	--



田中道子さん
令和6年度 1級建築士合格者
総合資格学院イメージキャラクター
令和6年度 1級建築士試験合格
当学院受講生（俳優）
田中道子さん

目の前に信頼できる講師がいるから
一人の勉強時間も、独りじやない。

1級建築士 合格実績 No.1
令和6年度 1級建築士 学科・設計製図試験
関西エリア 2位4県 大阪府・奈良府・兵庫県・滋賀県・奈良県・和歌山県
ストレート合格者占有率 68.9%
関西エリアストレート合格者 183名中 /
当学院当年度受講生 126名

当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。当学院資格学院の合格実績には、横断試験のみの受験生、教材購入者、無料の沿教提供者、過去受講生は一切含まれておません。半都道府県ストレート合格者数は、（公財）建築技術教育普及センター発表に基づきます。当学科・製図ストレート合格者とは、令和6年度1級建築士学科試験に合格し、令和6年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。（令和7年1月15日現在）

無料ガイダンス・体験講座 随時受付中!! 1・2級建築士 | 1・2級施工管理 | 宅建士 | 設備士



総合資格学院

奈良校

奈良県奈良市西大寺栄町3-27 素谷ビル 4F

TEL: 0742-30-1511

株式会社総合資格の人材サービス

総合資格navi

（新卒採用）お問合せはこちらのQRから→

